

SCOUTING

2020
No.739

9



特集

Scouting Never Stops!

CONTENTS

02 Scouting Never Stops!

05 Scouting Never Stops!
スカウト仲間を増やそう

06 Scouting Never Stops!
5分で分かる
「進歩に関する特別措置」と進歩制度

12 Web 会議環境を使った
スカウト活動の新たな方法

13 信仰奨励

14 スカウティングと SDGs
— 一緒に考えよう! 持続可能な社会のために —

16 野外活動のための安心・安全講座
ココロのそなえよつねに
～思いやり行動ができるとき、できないとき～

17 文部科学省委託事業
ボーイスカウトとあそぼう!
ワクワク自然体験あそび

18 維持会員

18 集めて支援! もったいない寄付

19 ローカルホットライン

22 ボーイスカウトPRムービーコンテスト2020

23 訃報

24 スカウトショップ



■ 感染拡大予防ガイドライン ver.02 (概要)

活動では、まず何よりも感染拡大のリスクを低減しましょう。政府等の情報を参考に、留意点をガイドラインとしてまとめました。政府や各地域(自治体)から出る要請等に応じ、各県連盟の活動の方針を基本としたうえで、本ガイドラインに沿って活動を展開してください。

基本的考え方

1. 感染リスクはゼロにはならないことを前提として、感染拡大リスクをできるだけ低減しながら活動する。
2. 基本的な感染対策である「3つの密」を避けるなど、「新しい生活様式」に対応する。
3. スカウトや指導者の家庭と連携する。
4. 感染者や濃厚接触者への差別や偏見、いじめ、誹謗中傷などを防止する。



県連盟による活動方針の基準

県連盟ごとに、以下の内容を基に活動方針を定めています。活動の際は、県連盟の活動方針を確認しましょう。

1. スカウトや指導者の生活圏における感染拡大の状況により判断する。
→ 自治体等の発表により地域の感染状況を確認し、地域の学校(部活動)などの対応を判断の参考にする。
2. 県連盟(地区)が各教育委員会へ問い合わせ等を行い、その内容を各団に伝達する。
3. 文部科学省資料「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～(2020.8.6更新 ver.3)」を参考にする。
→ 文部科学省の示す行動基準「レベル3」「レベル2」「レベル1」をスカウト活動に読み替える。

活動状況は各団のHPなどで知ることができますが、地域の状況により対応が異なることを理解したうえで情報を得ましょう。また、発信時も同様に各地で状況が異なることに配慮しましょう。

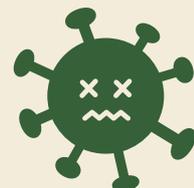
Scouting Never Stops!



今年の夏は、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染拡大に加え、断続的な大雨が日本各地に被害を及ぼすなど、活動が困難な状況が続きました。

日本連盟では、新型コロナへの対応についてガイドラインなどを明示するとともに、各地の状況に合わせた柔軟な対応をお願いしてきました。地域差はありますが、「3つの密」を避け、さまざまな工夫を凝らしながら、集合形態での活動も順次再開しています。

引き続き、一人ひとりが体調管理を徹底し、安全に留意して活動していきましょう。



地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動（自由意志の活動）
レベル3	できるだけ2m程度（最低1m）	行わない	個人や少人数でのリスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	できるだけ2m程度（最低1m）	リスクの低い活動から徐々に実施	リスクの低い活動から徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	適切な感染対策を行ったうえで実施	十分な感染対策を行ったうえで実施

- レベル3** 生活圏内の状況が、「特定（警戒）都道府県」に相当する感染状況である地域
- レベル2** 生活圏内の状況が、①「感染拡大注意都道府県」に相当する感染状況である地域
②「感染観察都道府県」に相当する感染状況である地域のうち、感染経路が不明な感染者が過去に一定程度存在していたことなどにより当面の間注意を要する地域
- レベル1** 生活圏内の状況が、感染観察都道府県に相当する感染状況である地域のうち、レベル2にあたらないもの

（文部科学省資料より）

感染リスクの高い活動と活動計画のポイント

内容によっては、代替プログラムやオンライン対応なども含めた活動の見直しを行いましょう。実施にあたっては参加者本人だけでなく、保護者等の理解と協力を得て進めることが重要です。

感染リスクの高い活動では、管理態勢など通常の活動以上に細かな準備や計画が必要です。以下のポイントを踏まえて準備しましょう。

1. スカウト（一般児童、付添者など含む）と家庭に対し、事前の連絡や確認をする
2. 指導者の体調管理と個人の備えを確認する
3. 適切な活動場所の選定と備品の消毒をする
4. 飲食物は個々に持参し、調理プログラムは地域の状況等によって実施を検討する
5. 集会やゲーム等の内容は間隔や参加人数を考慮して検討する
6. 公共交通機関の利用など、移動時の注意事項（混雑状況、マスク着用など）を確認する

■ チェックシートの活用

皆さんの団では、活動再開にあたり、どのような準備をされているでしょうか。感染が終息を迎えるまで、集合型の活動に臨むためにはさまざまな配慮が必要です。

スカウトと保護者に対して活動参加時に留意することなどを周知したり、活動中に使用する物を用意したりと、各団（各隊）が事前に準備すること、参加者自身が気をつけるべきことがあります。

すでに健康管理表などを準備して活動している団も多いのではないのでしょうか。これから準備する団は、秋田県連盟の「活動参加事前チェックシート」や埼玉県連盟「活動実施時の感染防止策チェックリスト」（県連盟のHPやSNS等に掲載）などを参考にして、それぞれの団でも感染予防の準備を徹底したうえで活動に臨みましょう。

活動参加事前チェックシート					
隊	BVS隊	CS隊	BS隊	VS隊	RS隊
活動日	年 月 日				
活動場所					
参加者氏名					
確認内容	チェック	対処したこと			
・ 平熱（ <input type="checkbox"/> 度）					
・ 参加前の検温（ <input type="checkbox"/> 度）	<input type="checkbox"/>				
・ 体調の確認（咳・だるさ、味覚障害の有無）	有 無				
・ マスクの着用	有 無				
・ 手洗い、うがいの励行（事前の実施）	有 無				
・ 県外、感染拡大地域への移動	有 無				
・ 県外からの移動者との接触	有 無				
・ 感染者との接触	有 無				

秋田県連盟「活動参加事前チェックシート」

新型コロナウイルス感染対応 活動実施時の感染防止策チェックリスト
2020.06.06

I. 活動計画時の全般準備事項

<input type="checkbox"/>	感染防止のため実施すべき事項や参加者が遵守すべき安全対策計画書、実施計画書を作成する。使用する会場のルール、取り決めに従うこと。（事前に参加者名簿の提出を求められる場合がある）
<input type="checkbox"/>	安全対策に基づき、必要な備品を準備する。 ○アルコール等による手指消毒用品 ○予備用マスク ○体温計 ○予備のタオル ○ゴミ袋とゴミ処理用のビニール手袋
<input type="checkbox"/>	スカウト、リーダーに事前に体調等の事前調査を依頼し、以下の該当項目がある場合、参加を見合わせるように保護者に依頼する。 ○体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合） ○同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合 ○過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
<input type="checkbox"/>	万が一、隊活動中に感染が発生した場合、個人情報の取扱いに十分注意し県連盟対応方針に従い、遅滞なく報告する。

II. 活動実施時の注意事項

<input type="checkbox"/>	集合時にスカウトに事前調査の確認をする。
<input type="checkbox"/>	隊の集散においては、原則マスク着用とし、スカウトとリーダーは十分なフィジカル・ディスタンスをとる。
<input type="checkbox"/>	屋内での活動は、必ずマスク着用とし、換気を十分に行う。
<input type="checkbox"/>	屋外での活動は、原則マスク着用し、熱中症等の配慮をする。なお、ゲーム等で身体を動かす場合は、マスクを外す。
<input type="checkbox"/>	ゲーム等は、飛沫感染、接触感染に十分注意した内容のものとする。また、ソングは十分な距離をとる。
<input type="checkbox"/>	活動中は、スカウトを観察し、体調不良の場合は保護者に連絡し、帰宅させる。
<input type="checkbox"/>	飲食をする場合、直前に必ず手洗いを行う。また、飲料の飲みまわしはしない。
<input type="checkbox"/>	道具等を使用する場合、使用前に消毒を行う。

埼玉県連盟「活動実施時の感染防止策チェックリスト」

■ ルールの習慣化

活動を行う際に、スカウト自身が自分たちの安全を守ることを考え、実践できるように工夫しましょう。

スカウトの進歩課題には、自らの「健康」について学び、行動するものがあります。また、キャンプや野外活動を通じて、「衛生」を保つ方法も多く学びます。それぞれの活動の中で、

スカウトたちが自分たちの活動でのルールなどを考え、決定する機会をつくり、習慣化できるようにしていきましょう。

スカウトにとって「習慣化=窮屈」なものではなく、「習慣化=快適に生活するための工夫」になるということを考える機会にしてみてください。

例えば……

1. 活動が始まる前にみんなで体調を確認し合う。
2. 安心して活動できる身体的な距離の保ち方を考えてみる。
3. 水分を多めに取る。もちろんマイボトルを使用！
4. 場所を移すとき、何かを始めるときや終わるときは、必ず手洗い（消毒）をする。
5. 活動後は、元気よくあいさつして帰る。

スカウト活動の中でできることはたくさんあります。「わたしたちのスカウトルーティン」として、それぞれの隊などで考え、習慣化していきましょう。



各隊や団で活動する際の計画チェックリスト、手洗いやマスクの着用などのルールを定型化し、スカウトが取り組みやすいように工夫することが大切です。

各地域の方針や日本連盟のガイドラインを基に、今年度下半期の活動計画を進めましょう。日本連盟のガイドラインは、ホームページでご確認ください。



Scouting
Never
Stops!



https://www.scout.or.jp/member/covid19_scout_guideline/

Scouting Never Stops!

スカウト仲間を増やそう

例年、入学や新学年を迎える春や、さまざまな環境に慣れてくる秋は、スカウト募集の特に重要な時期ですが、今年は新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）感染拡大によって4月に緊急事態宣言が出され、大きな影響がありました。

このような状況において、Webで体験集会を開催するなどの工夫をしていた団もありますが、多くの団は活動そのものの自粛に伴い、募集活動もままならない状況が続いたのではないのでしょうか。

■「体験・入団」希望の問い合わせ

日本連盟ホームページを経由した「体験・入団」希望の問い合わせ数を見てみると、昨年度は4月の問い合わせが200件あり、他の多くの月も100件を超えているものの、長期休み（夏休み、冬休み、春休み）にあたる月は、他の月よりも問い合わせが少ないようです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	200	153	139	132	96	184	130	160	97	170	191	79
2020年度	36	66	199	155								

(単位:件)

緊急事態宣言期間中の数を見てみると、4月は36件で前年の200件に対して8割減のわずか18%。続く5月も66件（対年度比56.8%）でした。ところが、緊急事態宣言解除後の6月は対前年度比143.2%の199件となり、7月は155件（対前年度比117.4%）でした。

このことから、新型コロナの影響を受けて激減した問い合わせは揺り戻し傾向が顕著であり、この問い合わせ者を取りこぼさず、さらに潜在的な入団希望者を掘り起こすためには、全国的にボーイスカウトの露出を高め、集中的に新規募集活動を行うことに一定の効果があると考えられます。

■ 募集活動の実際

新規加盟員の獲得に向けて、これまでにも各団でさまざまな対応を行ってきたことでしょう。地域性やスカウトの構成状況によっては、同じ「募集活動」でも異なる面が多々ありますが、今回は一般的な募集活動の実施方法を示します。



1. 体験集会等を設定する

チラシ、口コミで募集するにしても、どこかで実際にスカウト活動を体験（見学）してもらうことが必要です。普段の隊集会で受け入れるのか、あるいは特別なイベントを準備するのか、どのような機会で行うのかをまず検討しましょう。

2. 募集対象を設定する

募集計画において、どの年代を対象とするのかを検討し、活動や保護者向けの説明内容、対応者などを検討します。

3. 告知（チラシ、ポスター、口コミ、SNSの活用）をする

告知の方法や内容も重要です。対象児童の家庭に確実に届けるには、幼稚園や学校などからチラシを配布してもらうことが有効です。

- 学校などで配布してもらうには、普段から地域の学校と連携することが重要です。
- 「募集」と書くといがいっきり伝わる反面、学校などでは配布してもらいにくくなります。「自然体験」などとすることで、一般児童向け事業であることを明確にして教育委員会の承認を得ましょう。
- 「ビーバー隊」「団委員長」「団ハウス」など、つい使いがちなスカウト用語に気をつけるだけで、「話が分かりやすく、配慮のある人たちだな」と好印象になります。特に、スカウトの募集年代は隊名ではなく学年中心の表記（小学3～5年生:カブ隊など）にすることで、どの年代に当てはまるのかが伝わりやすくなります。

4. 体験集会を実施する

集会は、それぞれの対象年代などを考慮した計画のもとで実施しますが、さらに「募集」を意識した対応が必要となります。

- スカウトの活動の中に一般児童を招き入れる形が多いと思います。集会当日は、ベンチャーやローパーなどの若いスカウトが参加者のサポートを行いましょ。先輩スカウトの凛々しい制服姿と笑顔が、安心感と好印象を与えてくれます。
- 親子で参加しても、児童が徐々にスカウトの輪の中に入り込むにつれ、保護者の方が手持ち無沙汰になることが多々あるようです。このようなとき、スカウト運動についてなどをうまく伝えられるベテランの指導者や、保護者と同世代の団委員長（あるいはスカウトの保護者）などが対応できるとよいでしょう。
- 活動紹介のコーナーを設けることも効果的です。スカウト技能全般だけでなく、四季を通じた普段の活動写真を展示するなどの工夫を試みましょう。



5. お礼の手紙を出す

参加した児童および保護者宛に、お礼の手紙を出しましょう。メールなどでもよいですが、必ず次の集会を案内するようにします。

秋以降も、新型コロナの状況に十分留意しながら、各団でスカウト募集の方法についてよく検討して取り組んでいきましょう。

Scouting Never Stops!

5分で分かる 「進歩に関する特別措置」と 進歩制度

新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染拡大により、今年は例年とは異なる夏を迎えました。各地域の状況に合わせて活動の自粛や感染拡大防止に配慮した活動をするなど、上半期は思うように活動ができないことも多々あったと思いますが、下半期から次年度に向けてスカウティングの歩みを進めていくために、「進歩に関する特別措置」と進歩制度について、改めて確認しましょう。



● バッジシステムチャート

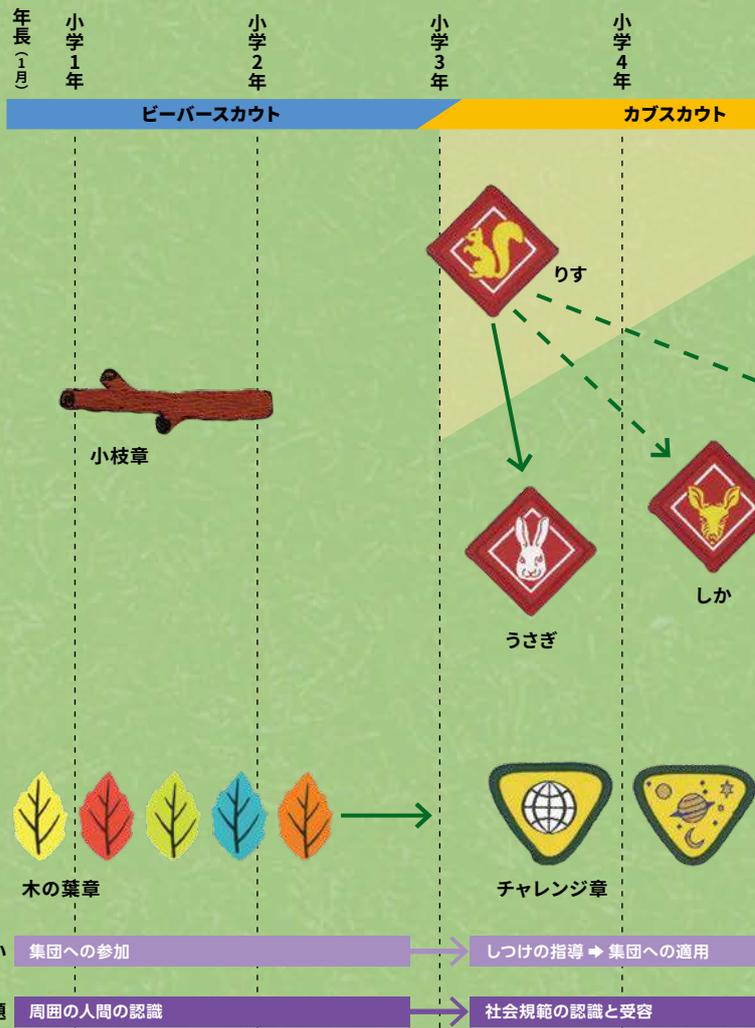
ベーデン - パウエル (B-P) は、赴任先のインドで英国本土からきた新兵たちを一人前の隊員にするために斥候術などを中心とした訓練を実施し、試験に合格した隊員に「斥候 (スカウト)」の称号と百合の記章を与え、着用させました。隊員たちはその証を誇りに、自らの技能と精神とをさらに高めていきました。

そして B-P は、この体験や親交のある教育者たちの知見をもとに、進歩制度とバッジシステムを確立しました。

右記のチャートは、各部門の必修課目と選択課目の履修の流れを図に表したものです。必修課目と選択課目に挑戦することで、各部門でどのような成長を遂げることを目指すのかを改めて確認しましょう。

必修課目は、各年代の成長・発達段階に合わせてスカウトとして身につけてほしい技能を設定し、段階的な成長を促します。カブ隊以下は学年ごとに必要な要素を修得し、ボーイ隊以上はスカウトとして必要な技能や知識および精神を、個人の意欲やペースに合わせて積み上げます。各自で修得に向けた目標を立てて実践し、次のステップへ繋げていくため、指導者にはスカウトがモチベーションを保つための適切な助言が求められます。

また、スカウトは自身の興味関心や才能を伸ばし、夢や自信のきっかけにもなる選択課目に取り組みます。ボーイ隊以上になると、進級の必修細目に設定されている選択課目 (技能章) も増えていきますので、スカウトの進捗状況を確認し、それぞれの状況に合わせて指導してください。



■ 進歩制度とバッジシステム

体力に自信のある子、根気強い子、不器用な子や目立つことが好きな子……。スカウトは、一人ひとり性格や資質、能力が異なります。ボーイスカウトでは、同じ性格や資質、能力の人をたくさん育成するのではなく、集団の中でそれぞれ異なる「個人」としての成長を促し、将来的に社会に貢献できる人を育成することを目指します。

スカウティングは「スカウト教育法」の8つの要素から成り立っています。その要素のひとつである「個人の進歩」は、年齢や段階に応じて修得すべき内容について、スカウトが自分のペースと方法で取り組むことで成長を促していきます。そして個人の進歩は、他の人と比べたり合否を決めたりするものではなく、一人ひとりが自分の最善を尽くして取り組むものです。

スカウトは活動を通じてさまざまなことに挑戦しますが、挑戦にはスカウト自身の「やる気」が欠かせません。「進歩制度」はスカウト

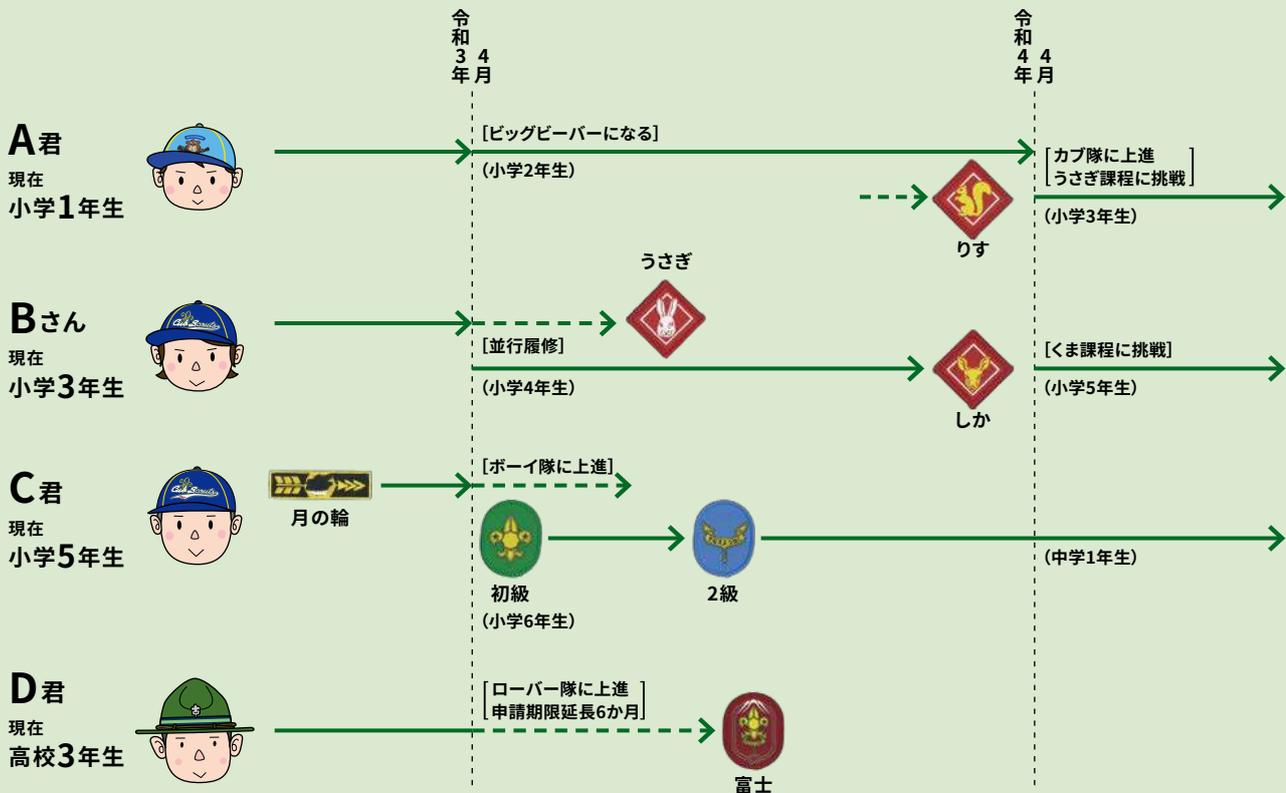
ウトのやる気を呼び起こす、スカウティングの特徴のひとつです。

進歩制度には、スカウトがさまざまな場面で発揮できる能力や可能性を育てることを目的とした「必修課目（進級章）」と、スカウトが自身の興味関心や得意なこと、将来の職業に役立つことを修得する「選択課目（チャレンジ章、技能章など）」があり、それぞれ部門ごと（自己啓発を中心とするローパー隊を除く）に設けています。これらの挑戦によって得られるバッジ（進級章や技能章など）は、自身の挑戦が「認められた証」であり、達成感を得ることでさらに前進しようというやる気を生み出します。また、技能を修得した証であるバッジを制服に着用することで、周囲からも頼りにされ、実際にその技能を活用する機会も増えるでしょう。繰り返し行うことで、修得した技能の精度も上がり、さらなる自信と成長に繋がります。

そのため、個人の進歩を促すためには、進歩制度と活動内容をうまく組み合わせた年間計画や個人進歩計画、活動報告を策定することが重要です。



3 各課程と進級章取得可能期間



BVS部門 学年が上がると同時にビッグビーバーになります。

CS部門 通常は年度内に当該課程の履修を終えますが、新型コロナウイルスによる活動自粛の影響で年度内に現在の課程を完修できなかった場合、次の課程に上がった以降、新たに取り組む課程と未完修の課程の修得課目を並行して挑戦することができます（並行して2課程に取り組む際の期間は、活動自粛期間に合わせて隊長が一定期間を定めます）。

BS部門 活動自粛に伴い、月の輪課程をカブ隊ですべて履修できなかった場合、残りの課目は、ボーイ隊に上進後、隊や班の活動において「初級スカウト章」として取り組みます。

VS部門 現高校3年生に相当する年齢のスカウトについては、2020年2月21日以降の活動制限期間を勘案し、富士スカウト章の日本連盟への申請期間を6か月延長します。今後の政府および自治体の措置による制限によっては、さらに延長することを検討します（現高校2年生以下に相当する年齢のスカウトについても、活動制限期間および今後の状況に応じて、申請期間の延長を検討予定）。

各課程で期間延長などの策を講じますが、プログラムの計画見直しなどを行い、年度内に進歩・進級を進めるようにしてください。

できることを探してみよう

新型コロナウイルスの影響で「3つの密」を避けて行動する必要がありますが、パトロールシステムを取り入れているスカウト活動では複数人で協力して行う活動が多くあり、これまで同様の活動を再開するのはなかなか難しい状況です。

例えば、ボーイ隊以上の活動では、キャンプの際にひとつのテントで複数人が生活するなどの「密」が生じます。夏の長期野営のほか、秋には班キャンプなどを計画していた隊もあるかもしれません。状況に応じて活動を中止する決断ももちろん重要ですが、

例えば、それぞれのスカウトが個人テントとしてリンツールを作ってビバークに挑戦するなど、工夫次第でより挑戦的な活動にする方法を考えるのもひとつです。実際に今すぐ実践できないとしても、安心して活動できるようになったときのために考えておくだけで、活動再開に向けた一歩前進に繋がります。

何が困難で、どうしたらその問題がクリアできるか、密を避けながら活動できる方法を考える機会を作り、スカウトと一緒に新たな活動計画を考えてみましょう。

4.

留意点

この特別措置のねらいは、日々変化する状況の中で「スカウトが今までと異なる視点で改めてスカウティングの面白さに気づくことにより、再び野外でキャンプやハイクをしたいという気持ちを育て、今後のスカウト活動に繋げていく」ということです。それぞれの隊や団で特別措置を講じる際は、以下の点に留意して進めましょう。

1. 柔軟な対応

スカウトの置かれている環境に合わせ、活動の方法や考査の方法を柔軟に設定する。野外や対面での実施が必要なものは、後日の挑戦などを前提に承認する。

2. 活動を通じた進歩

指導者は、単に課題を出すのではなく、スカウト自身が進級課目に興味を抱き、制限された環境下でも実施できる活動を取り入れたプログラムを提供する。

3. パトロールシステムの活用

スカウトの置かれた環境、活動制限や地域の状況に合わせ、可能な限り部門に合わせたパトロールシステムを活用する。

4. 基準の維持

スカウトが「特別に低い基準で修得した」と認識しないよう、課目への挑戦の意義や成果、「ちかい」と「おきて」の実践等を評価して、困難な状況下での修得に対して誇りをもてるよう最大限の配慮を行う。

5. 特別措置の見直し

活動制限の緩和や地域状況の変化により、特別措置における考査基準および考査方法を見直す。あるいは、状況に応じて通常の考査基準および考査方法に戻す。





■ まとめ

ここまで確認してきたとおり、ボーイスカウトは年齢による5つの部門に基づいて各年代に合わせた活動を行いますが、教育そのものはすべて一貫しています。ボーイスカウトの一員になったその日から、各課程の必修課目と自身の興味関心を広げる選択課目とに挑戦することで、初めは自分の身の回りのことができるようになり、徐々に仲間との協力などを通じて協調性や責任感を養い、最終的には、リーダーシップを発揮して将来社会に貢献できる人に成長することを目指します。

特に、ボーイ部門とベンチャー部門は、より一貫した進歩制度に変わりました(2019年4月より完全施行)。この改定は、各課程において目標となる技能や知識の修得を目指す必修課目を見直し、進歩の継続性を重視したものです。求められる技能を表す進歩の目標やキーワードが明確なことにより、挑戦するスカウト自身が各課程の目標を自分の展望として認識するとともに、保護者は自身の子どもがスカウトとしてどの段階で、今後どのような成長の姿がみられるのかを思い描きやすくなるという特徴があります。

活動と進歩には大きな関わりがあります。新型コロナの影響で上半期は活動自粛が続いたこともあり、現在、予定よりも進歩が

停滞しているスカウトも多くいるでしょう。自粛が解除されてからも、密を避けるなどの感染対策を講じて活動を行う必要があり、これまで同様の活動が困難な状況は、今後も続くと考えられます。ここでスカウトが進歩を停滞させたままにせず、次のステップへと進むためには、指導者からの適切な支援が重要です。まずは、今すべきこととして、特別措置に基づいて進歩や活動の計画を見直してみましょう。

今回の特別措置は、隊長の判断による柔軟な対応が重要です。どのような状況においても、指導者は、スカウト一人ひとりの特性を理解したうえで、そのスカウトが課題に対してどのように向き合い努力したのかを見守り、その姿勢を適切かつ柔軟に評価することが大切です。それが、スカウトのさらなる成長や挑戦への意欲に繋がります。

私たち指導者は、スカウトが「新型コロナのせいでできなかった」「自粛していたから仕方ない」と、本来予定していたさまざまな挑戦をただ諦めてしまうのではなく、「どうしたら、できるようになるか」「何から取り組んだらいいか」を考えられるようにスカウトを支援し、スカウトとともに活動を進めていきましょう。

Web会議環境を使ったスカウト活動の新たな方法

新型コロナ禍の中、Scouting Never Stops! の合言葉のもと、各団がさまざまな方法で活動を継続しています。

日本連盟では、この4月よりWeb会議環境アプリケーションの無償提供を行い、全国の多くの団にオンラインでの会議や集会などで活用いただいています。独自に他のオンラインツールを準備してスカウト活動を行っている団も多数ありますが、今回は日本連盟が提供したサービスの利用状況についてご紹介します。ぜひ、各団での今後の活動にお役に立ててください。

■ 団による活用

スクール・オン・エア

埼玉・さいたま第21団 ローバー隊長 村田 勉

埼玉県連盟さいたま第21団ローバースカウト隊では、カブスカウトおよびボーイスカウト向けの学習補助プロジェクト「スクール・オン・エア」を実施しました。

このプロジェクトは、スカウト技能の講習ではなく、あくまで休校中の後輩スカウトの宿題の手助けを目的とした、Google Meetを用いた学習支援です。

5月はじめに企画を立案し、Google Meetでミーティングを重ね、5月後半から実際にプロジェクトを開始しました。オンライン上のミーティングは場所や時間の制限が少なく、また集中して行えるため、企画立案から計画・実行へと迅速に進めることができました。

ローバー隊では、今後も状況に応じてオンラインミーティングを取り入れたいと考えています。



配布したチラシ

【保護者の声】

先日は貴重なお時間ありがとうございました。子どもは、楽しかったようです(^-^) 私が教えると言い合いになるのですが、すごく素直に聞いていてビックリしました。ありがとうございました！

【ローバースカウトのコメント】

●オンラインシステムを使うことに抵抗がなくなるように工夫できたので、次にオンラインで、各隊を横断して行えるプロジェクトがあれば意識したい。

●いつもの形とは違い、かなりイレギュラーな形でのプロジェクトだったが、新たなツール(Google Meet)に触れたり、スカウトへいかに分かりやすく勉強を教えるかなどを考えたりと、自分の中でさまざまなことを学べた。スカウトに勉強を分かりやすく教える方法を考えることは、今後リーダーとして各隊へ奉仕する際にも役立つので、この機会が自分の成長にも繋がった。



■ データで見る利用状況

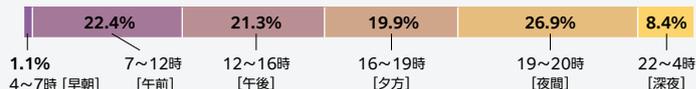
日本連盟からのWeb会議環境提供に申請いただいた団に、利用状況のアンケートを実施しました。このアンケートと6月末時点のログデータをもとに集計した利用状況をご紹介します。

発行アカウント数	651
会議開催回数	9,749回
(2人以上参加)	
会議開催回数平均	8.6回
総使用時間	5,804時間
平均使用時間	1時間26分
参加人数平均	5.5人

▶ 曜日ごとの開催回数割合



▶ 時間帯ごとの開催回数割合



▶ 曜日×時間帯ごとの開催回数割合

	4~7時 [早朝]	7~12時 [午前]	12~16時 [午後]	16~19時 [夕方]	19~20時 [夜間]	22~4時 [深夜]	総計
月曜日	0.08%	1.38%	1.28%	1.74%	3.01%	0.92%	8.42%
火曜日	0.18%	1.47%	1.63%	1.70%	3.63%	0.93%	9.55%
水曜日	0.10%	1.83%	2.13%	1.75%	3.16%	1.24%	10.22%
木曜日	0.07%	1.03%	1.38%	1.51%	2.89%	1.10%	7.98%
金曜日	0.12%	1.33%	1.22%	1.54%	4.06%	1.42%	9.69%
土曜日	0.16%	5.30%	5.72%	6.25%	5.89%	1.68%	25.01%
日曜日	0.37%	10.06%	7.90%	5.44%	4.27%	1.10%	29.13%
総計	1.10%	22.40%	21.27%	19.93%	26.91%	8.39%	100.00%

アンケートの集計から、約80%の団が何らかのオンラインツールを活用し、活動を継続していることがわかりました。

オンラインで活動を行うメリットには、感染予防のほか、移動時間の短縮や移動自体の負担軽減、開催日時や場所の柔軟性があがり、デメリット(課題)としては、導入のためのスキル、機材の不足等が主にあげられました。



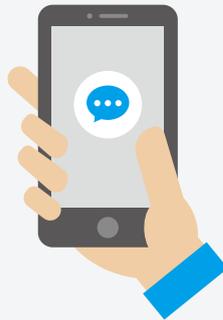
■ 配付アカウントの永続使用開始

今回、多くの団にご活用いただきました Web 会議環境無償提供プログラムは、今後も感染症予防対策を求められる状況が続くことに鑑み、また、団運営の効率化を支援することを目的として、期限制限をなくした永続的なものへとサービスを拡大します。

永続的サービスへの移行に伴い、新たに利用希望の団からの申請を受け付けます。本サービスに申請いただくと、下記のようなメリットがあります。

1. 団専用メールアドレスの付与（メールアドレスは自動定義で作成するため、希望名の指定はできません）
2. 上記アカウントに対し、容量無制限ドライブを1つ割当
3. Google Meet が使用可能

今後も新型コロナの影響が続くことが予想されます。このタイミングで、オンラインを活用した活動の実施なども検討してみたいかでしょうか。



デジタルトランス フォーメーション (DX) 推進室

EMBARK ON A NEW ERA
BS》DX
ボーイスカウト

今年4月、日本連盟事務局に創設。加盟員の皆様への情報提供のスピードアップや多角化を推進していきます。

【創設以降の取り組み】

- 全国大会の代替となるデジタルイベントの基盤支援
- 団会議などで使える Web 会議のやり方ガイドの作成 など



詳細は日本連盟ホームページをご確認ください。

<https://www.scout.or.jp/member/com/dx/>

信仰奨励

私にとって忘れられない夜話

信仰奨励委員会 村上 智真

私を育ててくださった恩師のお一人である S 隊長の夜話です。

私が二十代の頃、営火のおりにしみじみと語りかけてくださったもので、後に『本派スカウトクラブ誌』という冊子にも掲載されました。温厚誠実な S 隊長のお人柄と相まって、今も私の心に残るお言葉です。

一火を見ながらー

テントをたて、カマドをつくり

ごはんをたき

そして ハイキングにも出かけたね

たのしかったり つらかったりしたキャンプも

あしたで 終わり……

ふだん ごくあたりまえとと思っていることが

実は

いろんなたくさん 周りの人たちの

「おかげ」があったからなのだ

知らされたんじゃないですか

一人一人 カオがちがうように

ひとりひとり 気持ちもちがい

ひとりひとり 得意なこともちがいますよね

そんな 仲間が あつまって

それぞれの能力を出し合って

ひとつにまとまること

それが スカウトの

「パトロール・システム」ってということなんだって……

そんな 人が ものが あって

「私」をささえて けている

だから私も 私にできることで

まわりの人たちを ささえてあげなくちゃ……

そういう勉強をさせてくれるのが

スカウト活動なのです

ふだん 家では できないこと

考えることもなく すぎてしまうこと

そんな ごく 小さな

でも

すごく大切なことを教えてくれた

「キャンプ」ありがとう！

つれてきてくださった

「リーダー」ありがとう！

最後の夜の 火を見ながら 私は そう思うのです

スカウティングとSDGs

一緒に考えよう！ 持続可能な社会のために

持続可能な開発目標 (SDGs) は、「leave no one behind (地球上の誰一人として取り残さないこと)」を目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき 17 の目標と具体的な取り組みである 169 のターゲットによって構成されています。

今号では、今年で創設 75 周年を迎える国際連合 (国連)^{*1} と、世界の学校給食の提供に尽力する国連 WFP 協会^{*2} の取り組みから、それぞれの年代でできる事例をご紹介します。

個別の目標から考えよう

目標 10

「人や国の不平等をなくそう」



日本では、この目標についてイメージしにくいという人も多いかもしれませんが、日本国内においても多くの不平等が存在します。国際社会において共通課題であるジェンダー (性別) の問題、子どもや大人のいじめ、高齢者や障がい者の人権、そして新たな課題として新型コロナウイルス感染症におけるさまざまな差別や不平等が生じています。

この目標は、不平等が生まれる理由のひとつである「格差」の是正や、差別が生じてしまう法律や慣習をなくすことを目指しています。

活動で 取り組んでみよう

BVS CS

家族や隊の仲間と一緒に「地球を救う3つのこと」の動画を見てみましょう。そして、地球にとって大切なことは何か、どういう世界になってほしいかを考えてみましょう。

私たちは、自分でも気がつかないうちに誰かを差別してしまっているかもしれません。どんな人にも悩みや悲しいことがあることを理解し、もう一度、自分自身に問いかけて、私たちの未来について考えて、それをみんなで共有してみましょう。

国連創設 75 周年

国連は、今年で創設 75 周年を迎えます。これを記念し、現在、世界の人々に対し、未来に関する対話 (global conversation) を促しています。



どんな未来を望むか、あらゆる年代の人がさまざまな場所から自分に関係することとして考え、話し合い、行動することが求められています。

国連では、世界的に広まっている新型コロナによる健康危機を含め、気候変動や紛争、飢餓といった課題に関する Web アンケートを実施しています。アンケートで出た意見やアイデアは、第 75 回国連総会 (2020 年) のイベントで提示される予定です。

また、アンケートの他にも多くのコンテンツが用意されています。特に、動画「地球を救う3つのこと」は、「地球に対してできることを考えることで、人も国も平等な世界を目指す」ということを考えられるように 1 分程度にまとめたもので、スカウトにも分かりやすい動画です。



<https://www.scout.or.jp/member/un75/>

「国連創設 75 周年」日本連盟特設ページ

■ 関連するチャレンジ章に挑戦しよう



国際：この取り組みをきっかけに国際連合について調べ、細目 (1) の内容に取り組む。



市民：細目 (2) や (4) に関連付けて、住んでいる地域をより良くするためにできることを考える。

活動で 取り組んでみよう

BS VS RS

自分たちの隊や団、または家族と一緒に、私たちの社会に対して今できることは何なのか、話してみましょう。気軽に話し合うことで、自分が困っていることや感じていることを共有できます。また、ベンチャースカウトであればフォーラムの形式を用いて、しっかりと議論する場を設定することもできます。

最終的には、それらの考えや思いをどのように行動に移し、継続していくのかという意識をもって、普段の生活で実践していきましょう。

■ 関連する技能章に挑戦しよう



公民：細目 (5) に関連付けて、市民権 (Citizenship) について調べてみる。



リーダーシップ：細目 (4) に関連付けて、「傾聴」を意識して仲間と話し合いをする。

目標2

「飢餓をゼロに」

2

飢餓を
ゼロに

古くから日本では、台風や大雨などの風水害、地震や火事に悩まされ、近年では、温暖化などの「気候変動」という言葉もよく耳にします。かつて農業が産業の主体であった日本は、気候の影響を受けた農作物の不作によって、飢饉や飢餓に苦しむことも多くありました。また、世界に目を向けると、住民を巻き込んだ内紛や戦争によっても同様の問題が発生しています。

この目標は、飢餓を減らし、子どもからお年寄りまですべての人が栄養のある十分な食事をとれるようにすることを目指しています。

本誌2020年3月号(No.736 P.11)でもご紹介した国連 WFP 協会のキャンペーン「ゼロハンガーチャレンジ」が9月1日に始まることから、より詳細な取り組み方法についてご紹介します。自分たちの身近なところで食品ロスについて考えてみましょう。

ゼロハンガーチャレンジ

～食品ロス×飢餓ゼロ～

このキャンペーンは、国連 WFP 協会が「世界食料デー（10月16日）」の取り組みとして、食品ロスと飢餓ゼロをテーマに実施するものです。食品ロスを減らすためのアクション（野菜の皮など捨ててしまいがちな食材で料理するなど）を SNS に投稿したりシェアしたりすることで、協力企業が1アクション120円を国連 WFP 協会に寄付し、飢餓状態にある子どもたちへの給食支援に役立てられます。

食事は、私たちの生活に欠かせません。ですが、本来であれば世界の人口を賄うだけの食料があるにもかかわらず、およそ6億9,000万人が飢えに苦しんでいるといわれます。その一方で、毎日大量の食べ物が廃棄されているのが現実です。「食品ロス大国」である日本でも、この問題から目をそらすことはできません。



© Mayumi Rui

活動で
取り組んでみよう

BVS CS

それぞれの家庭で「廃棄してしまう食材トップ5」を調べましょう。その結果を共有して、共通する食材はあるか、家庭ごとにまったく異なるのか、みんなで話し合ってみましょう。

食材が出そろったら、「食品ロスレシピ」をみんなで考えてみましょう。自分が食べたいものや「みんなで作ったらおいしそう」というものでも構いません。アイデア次第で捨てられるはずだった食材をおいしい食事に変えることで、食事の大切さや社会貢献を実感できるはずです。

■ 関連するチャレンジ章に挑戦しよう



料理家：細目(3)に関連付けて、自宅で「食品ロスレシピ」に挑戦する。



手伝い：細目(5)に関連付けて、食事の準備から調理、後片付けまで実施する。

活動で
取り組んでみよう

BS VS RS

廃棄されやすい食材を調べて、廃棄しにくい方法を考えてみましょう。食材を長持ちさせる方法や傷みやすい食材から順番に利用することは、キャンプ中の野外料理でも役立つスキルです。今後の活動で活かせるように考えましょう。

また、「世界食料デー」について調べ、世界の飢餓がどのような問題であるのか、その課題に対して国内外でどのような取り組みがあるかをまとめてみましょう。

「食」には、生産、加工、流通、調理や提供の方法など多くの工程があり、残さず食べる（廃棄を減らす）ことまでが一連の流れになっています。どれかひとつのことだけ考えるのではなく、全体的な視野で私たちにできる改善策を考えてみましょう。

■ 関連する技能章に挑戦しよう



公民：細目(3)に関連付けて、日本における国際貢献について、食の観点を加えて調べる。



野営管理：細目(1)に関連付けて、食材を余すことなく使えるように食材の手配を考える。

SCOUTS for SDGs

※1 **国際連合 (United Nations)：**第2次世界大戦を防げなかった国際連盟の反省を踏まえ、1945年10月に51か国の加盟国で設立され、日本は1956年12月18日に加盟(80番目)。現在は193か国が加盟しています。国際平和と安全の維持、諸国間の友好関係の助長、「経済」「社会」「文化」などに関する国際協力の実現を目指して活動しています。

※2 **国連 WFP 協会：**飢餓と貧困の撲滅を使命とする WFP 国連世界食糧計画を支援する認定 NPO 法人で、日本における WFP 国連世界食糧計画の公式支援窓口です。企業や団体と協力して世界に給食を届ける活動や、国内における世界の飢餓問題や WFP 国連世界食糧計画の食料支援活動に関する情報発信を行っています。

■ 野外活動のための安心・安全講座

ココロのそなえよつねに ～思いやり行動ができるとき、できないとき～

「思いやり行動」とは、どんな行動でしょうか？ 相手のため、仲間のため、家族のため、社会全体のためになることを、それぞれの立場になって考えて行動することです。つまり、ボーイスカウトの「ちかい」のひとつ、「いつも他の人々をたすけます」ということでしょう。

「思いやり行動」のためには、相手を思いやる心の育成が必要です。ボーイスカウトでは、少人数でのグループ編成、異年齢構成、役割分担による活動とおして、「相手の立場になって考えられる力、行動できる力」が身につくようにしています。

1. あなたの「思いやり度」をチェック！

以下の文章を読んで、あなた自身にあてはまる項目を確認してみましょう。

- 人を思いやることが何よりも大切だと思う
- 人が悲しんでいると、自分も悲しくなってしまう
- 人が困っていたら助けてあげたい
- 映画やドラマで感動してよく泣く
- 頑張っている人を見ると応援したくなる

どうでしたか？ ✓が多い人ほど、「思いやりのある人」です。

では、✓が多かった皆さんに聞きます。あなたは、いつも思いやり行動ができていますでしょうか？ できない場合がたくさんありませんか？ それはなぜでしょうか？

2. ココロの法則を知っておこう！

法則 人は、思いやりがあっても思いやり行動（人助け）ができないことがある！

思いやり行動ができなくなる（抑制される）条件について、3つほど紹介します。自分の経験に照らし合わせてみましょう。

- 1 自分のことで頭がいっぱいとき
- 2 助けたいが、どうしてよいか分からないとき
- 3 周りに人がたくさんいるとき



1 自分のことで頭がいっぱいとき

「遅刻しそう」「出かける前に家族とケンカをしてイライラ」「悩みごとがある」「体調が悪い（どこかが痛いなど）」など、周りのことを気遣ってられないような状態は多々あります。このような状況のときは、自分の問題に注意が向いてしまい、周りの人に対する「思いやりの心」は遠くへ追いやられてしまいます。

2 助けたいが、どうしてよいか分からないとき

「苦しうに倒れているけど、自分ではどうしてあげたらよいか分からない」「何か困っているようだけど、どうしよう？」という経験はありませんか。ここには2つの側面があります。

1つは経験不足です。実際に経験したことのない行動は、いざというときにはなかなか出てきません。もう1つはスキル不足です。

人は自分の力だけで何でも解決できるわけではありません。その場の



様子や周囲の状況をしっかり見聞きし、助けてくれる人に援助をお願いする（「援助要請」という）、状況を把握する能力とコミュニケーション能力が必要です。

3 周りに人がたくさんいるとき

周囲にたくさん人がいると、「こんなにたくさん人がいるのだから誰かが助けるだろう」と考えて、結局誰も助けないということが起きます。これは「傍観者効果」とか「責任の分散」といわれる集団心理が働くためです。

3. 解決策

1～3の法則を知っているだけでも対策にはなりますが、この法則から脱する方法を考えると、スカウトの日々の訓練がいかに大切か分かると思います。

解決策1 からだを強くし、心をすこやかに！

他者に対して、思いやり行動がいつでもとれるようになるために、まず必要なのは「自分の心身を思いやること」です。日々の生活において自分の心と身体が健康な状態でないと、他者を思いやる余裕がなくなり、行動に移しにくくなることがあります。まずは今の自分自身の心と身体の状態をよく観察し、把握し、大切に過ごしましょう。

解決策2 日ごろの訓練で「思いやり行動」を経験し、習慣化する！

身体で覚えた記憶はなかなか忘れることはありません。自転車は一度覚えてしまえば乗り方を忘れることはありませんし、スキーの滑り方もすぐに身体が思い出しますね。

日ごろから「ごみを見たら拾う」「困っている人がいたら声をかける」などを習慣化していくと、日常生活でも自然と行動に移せるでしょう。また、誰かの「思いやり行動」を見かけたら「すごいね」「えらいね」と互いに声を掛け合い、意識して習慣にしていきましょう。

解決策3 援助要請スキルを磨こう！

ボーイスカウト日本連盟初代総長の後藤新平は、「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そしてむくいを求めぬよう」と提唱しました。

しかし多様化、複雑化、高度化した現代社会では、困ったときに自分一人ではどうにもならない状況が多くなっています。そのような時代においては、適切な助けを求めることのできる情報収集スキルやコミュニケーションスキルが必要です。すなわち「人のお世話になれるよう」も必要なのです。それには、スカウト訓練の中で養われる情報収集力、観察力、推理力が大いに役立ちます。

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会



ボーイスカウトとあそぼう!

ワクワク

自然体験あそび



今般の新型コロナウイルス感染症は、子どもたちの日常に大きな影響をもたらしています。中でも、特に屋外での活動の減少や未知の感染症拡大に対する不安などは、子どもたちの成長に影響を及ぼす恐れがあります。

このようなことから、「子どもたちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動推進事業（委託）」の委託先を文部科学省が公募しました。この事業は、各地域の感染状況と感染防止に十分留意したうえで、子どもたちの自然体験活動を充実する取り組みを全国的に展開するというもので、自然体験活動実施のノウハウや指導者等を有し、全国規模または地域規模の取り組みを企画、実施できる団体に委託することとされています。

日本連盟では、この事業の趣旨に賛同し、各地域の協力を得て実施する事業を応募、受託しました。

さあ、はじめよう。

コロナ禍の中でも、屋外で楽しい活動を。

今回の事業では、各地域の感染状況を見ながら感染防止対策を十分に行ったうえで、下記のような内容を実施します。

体験集会、スカウトと一緒にあそぼう。

■ 自然の中で

近隣地域の自然の中（主に屋外）で活動します。多くは半日型（3時間程度）の活動を想定していますが、1日型で昼食を挟んでの活動も可能です。それぞれの地域の自然環境を活用した活動を実施しましょう。

■ みんな一緒に

この事業は「すべての青少年」が対象なので、スカウトもその対象になります。ただし、文部科学省からの委託条件には、実施において「自らの会員に限定することなく、広く児童の参加を受け入れて実施すること」とあるので、一般児童とスカウトと一緒に楽しく活動に参加するようにしましょう。

■ 体験集会として

本事業の目的は、「多くの子どもたちが元気を取り戻し、健やかな成長を遂げるために自然の中での体験活動を進める」ところにあります。活動に参加する子

どもや保護者に対してスカウト活動の楽しさや素晴らしさを伝えられる機会でもあります。遊びの中にスカウト技能そのものを必ずしも含める必要はありませんが、スカウト活動で味わえる楽しさをぜひ伝えましょう。

■ しっかりとした広報を

今回は、文部科学省の委託事業であること、また、多くの子どもに参加してもらうために、地域の小学校で対象学年の児童へチラシを配付するなどの広報をしっかりと行っていく予定です。こちらは、それぞれ地域のスカウト関係者、スカウトの保護者の皆さんにご協力いただき、学校への働きかけや依頼をしていただきます。詳細は各県連盟を通じてお知らせします。

■ 地域での進め方

本事業は、各県連盟に展開の調整をお願いしていますが、この事業の趣旨に基づいて団独自に展開することも可能です。事業の資材提供などはできませんが、ぜひ取り組んでください。

事業概要

期間

2020年8月下旬～2021年3月下旬のうち土、日、祝日および学校の長期休み

会場

全国717会場（予定）

対象

小学生・中学生

内容

各地域で普段から行われているスカウト募集（一般児童を招待しての自然体験活動、体験集会など）をその機会として、展開。地域の多くの子どもたちに自然体験を通じて、笑顔になってもらうことを目指しつつ、この機会にボーイスカウトの楽しさも伝え、その後も活動に参加してもらえるように取り組む。

維持会員 (敬称略)

スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の方々です。

ご支援ありがとうございます

2020年 5~6月度

【宮城】 鈴木 美恵子	【埼玉】 渡辺 修	柳下 裕明
【秋田】 佐川 芳子	西山 繁夫	境 紳隆
東光 鉄工 (株)	綱島 宗和	土田 和男
【栃木】 白澤 嘉宏	鈴木 俊明	吉田 章
【群馬】 新藤 信夫	新 和男	窪田 隆
奈良橋 俊宏	角尾 雅也	伊藤 郁夫
林 高行	村山 至	B S 横浜 7 4
原 義裕	【千葉】 佐藤 美和子	【東京】 中井 正生
小倉 豊人	【神奈川】 佐野 友保	額谷 征幸
大川 由明	木村 重男	余多分 正敏
夏目 正	大熊 耕三	武藤 八朗
小堀 剛	近江 廣之	宇津木 太
引間 敏夫	濱田 雅弘	【新潟】 関川 憲司
	鈴木 武道	坂上 洋司

【福井】 羽木 秀樹	渡辺 久高	【宮崎】 鈴木 至
【長野】 (株)プリントショップ	BS西尾1育成会	【日本】 松本 仁
【岐阜】 木村 芳郎	根木クリニック	尾上 憲勝
【静岡】 瀧島 三郎	根木 浩路	Harvey Paul
花畑 金亨	【三重】 松本 秀樹	B S 武蔵野 4
戸田 正明	中谷 真啓	(有)ニシハタ織機工業
土山 惟之	【兵庫】 黒田 茂	
【愛知】 瀧 克己	枝根 秀男	
近藤 博	【奈良】 松村 優	
佐野 守彦	松村 知子	
秋月 雅仁	【和歌山】 ヤマチエステート(株)	
神谷 昭範	【大阪】 高見 篤志郎	
三浦 浩嗣	【愛媛】 龍田 純孝	
外山 悟	堀田 利知	
石坂 純一		
吉野 博樹		



マンスリーサポート維持会員

毎月 1,000 円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。

<https://www.scout.or.jp/support/04/>

5 ~ 6 月に入会または 1 年継続された方々です。

【岩手】 小守林 靖一	【埼玉】 高橋 義人	【兵庫】 山本 浩介
【宮城】 高山 雅光	【千葉】 児玉 春美	【奈良】 佐藤 之雄
【秋田】 吉田 司	光延 健秀	【鳥取】 中尾 圭介
【山形】 太田 浩	【東京】 星月 一人	【岡山】 平井 清志
【栃木】 斎藤 明美	【愛知】 澤 朋宏	【山口】 野坂 朋克
【群馬】 小茂田 岳広	【京都】 井上 義雄	【日本】 工藤 洋介

**使途指定寄付を
いただきました**

加盟員の方から、新型コロナにより経済的な影響を受けているスカウトへの支援を目的として、政府から支給された「特別定額給付金 10 万円」をご寄付いただきました。ご厚志は、経済的な事由によりスカウト活動への参加が困難なひとり親家庭を支援する「ともに進もう助成プログラム」への使途指定寄付として活用させていただきます。



集めて支援！ もったいない寄付

現在、日本では 7 人に 1 人の子どもが貧困状態にあるといわれています。

ボーイスカウトでは、経済的な事由により、スカウト活動への参加が困難なひとり親家庭を支援する「ともに進もう助成プログラム」を実施しています。本プログラムの趣旨にご賛同いただいた皆さまのご支援により、これまでの 5 年間で延べ 232 人のスカウトに助成を行って来ました。

この助成の原資は、皆さまのご協力によって集められた「もったいない寄付(書き損じハガキや使用済み切手等)」を換金して得た資金と「使途指定寄付」です。

これまで各団をはじめ、個人の方から幅広くご協力いただいている「もったいない寄付」ですが、今年度は新型コロナによる経済状況への影響で助成プログラムに

例年の約 3 倍の申請があり、より一層の原資確保が必要です。皆さまのお手元に、書き損じや未使用のハガキ等がありましたら、ぜひ日本連盟にお送りください(未使用や使用済みの切手、テレホンカード、プリペイドカード、ゲームソフト、貴金属等も財源になります)。

さらに、日本連盟では、ブックオフコーポレーションと提携して新たな方法による寄付を受け付けています(不要になった CD やゲーム、本などをブックオフオンラインで買い取ってもらうことで、その買取金額[売上金]を寄付していただくことができます)。

捨てようと思っていたものでも支援に繋げることが可能です。引き続き、隊や団だけではなく、身近な人や企業、団体へも協力の呼びかけをお願いいたします。

スカウト運動をご支援いただく方法が拡大しています。引き続き、さまざまな形でのご支援をお願いいたします。

- **もったいない寄付**
切手や書き損じハガキ等の回収(日本連盟でまとめて換金)
- **モノでもったいない寄付(ブックオフコーポレーション提携事業「キモチと。」)**
不要になった本や CD、ゲームなどの買取(売上)金による寄付
- **ボーイスカウト支援自動販売機設置(コカ・コーラボトラーズジャパン(株)提携事業)**
売上金の一部が県連盟等への寄付になるほか、広告塔にもなるラッピング自販機の設置
- **遺贈による寄付**
遺言として、財産の一部または全部の受取人を「公益財団法人ボーイスカウト日本連盟」に指定する寄付
- **使途指定寄付**
使途(日本連盟事業)を指定する寄付
例: ジャンボリー、100 周年記念事業など

※ ボーイスカウト日本連盟は「公益財団法人」の認定を受けておりますので、維持会費および遺贈等の寄付について、免税措置を受けることができます。



もったいない寄付については、こちらをご確認ください。

<https://www.scout.or.jp/member/mottainai2020/>

ローカルホットライン

Local
Hot
Line

団・地区・都道府県連盟だより

- ……団
- ⊠……地区
- ……都道府県連盟
- ◇……その他



東京 □ チャレンジ章をすべて取得！

板橋第4団 団委員長 松下 善守

チャレンジ章をすべて取得したスカウトが誕生しました。板橋第4団としては、十数年ぶり3人目の快挙です。

最後のチャレンジ章を全スカウトの前で隊長につけてもらい、仲間から祝福されました。

また、城北地区発足以来、初めてチャレンジ章をすべて取得したスカウトとして、「地区優秀スカウト章」を受章しました。大変名誉なことだと思います。

ご両親にもいろいろと協力してもらい、成し得た結果だと思います。お父さん、お母さん、ありがとうございました。今年ボーイ隊に上進となりますが、これを糧にボーイ隊でもスカウト活動を頑張ってもらいたいと思います。

東京 □ スカウトによる嬉しいスピーチ

葛飾第2団 ボーイ隊隊長 町田 正照

新型コロナウイルスの関係で活動自粛が続くなか、4月から当団ではWebによる班長会議（訓練）、班集会、隊集会を毎週行い、7月5日にようやく各種配慮のうえ、団全体で上進式を行うことができました。

通常は3月末にカブ隊のお別れ集会を行い、4月第1週に上進式を行っているのですが、今回はできるだけ時間を短縮するために、カブ隊のお別れ集会後にそのまま各隊への上進式を行いました。

このカブ隊のお別れ集会の中で、ボーイ隊に上進するスカウトが、カブ隊の思い出や将来の事をスピーチする場面があり、そのうちの一人が指導者にとって大変嬉しいスピーチをしてくれたのでご紹介します。

私がボーイスカウトに入って、嬉しかったり楽しかったりしたことが、大きく分けて3つあります。

1つ目は、自然に触れあえることです。私は、カブに入る前は虫などが怖かったけれど、自然に触れあう度に、虫がかわいく思えて、同じ生き物がいるんだな～と思い始めました。

2つ目は、たくさんの笑顔が見られることです。私は募金などでたくさんの笑顔に出会えました。募金する人に笑顔で「ありがとうございます」とお礼をすると、その人がまた笑顔を返してくれました。この笑顔を見て、とても嬉しくなりました。

3つ目は、私にとって一番大きなポイントで、みんな仲良く親切だということです。私は保育園のときから、何となく、からかわれがちでした。私は同学年の子に「とした」と言われたり、いつもオモチャを横取りされたりして、いろいろと辛いことや悲しいことがありました。だから、そこに年齢の差を感じました。年下の人は年上の人に勝てない弱い人だと思っていました。

今では何とも思わなくなりましたが、保育園のころからからかわれたことが心に残っていて、男子にからかわれたりしたとき、とても辛かったです。そんな中、お父さんからボーイスカウトを勧められました。「またからかわれないか、年齢の差が大丈夫か」と心配でしたが、私は入ってとてもビックリしました。ボーイスカウトは年齢の差をそんなに感じなく、男女みんな仲良く行動していました。だから、私は毎週日曜日の活動が楽しみになりました。私にとっては、スカウト活動はとても大事な存在です。

私の将来の夢は2つあります。1つは保育士になることで、もう1つは、このままスカウト活動を続けて、ビーバー隊やカブ隊、ボーイ隊の隊長になることです。

ボーイスカウト 阪神さくら地区

笑顔になれる遊び配信

ボーイスカウト阪神さくら地区(西宮、芦屋)のリーダーが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う自粛で疲れが出始めています。5月の大型連休はキャンプを予定していた。しかし、新型コロナウイルスに伴う自粛で対



ボーイスカウト阪神さくら地区のリーダーによる動画「You Tube」から三つの動画を配信している。同地区には17団があり、5月の大型連休はキャンプを予定していた。しかし、新型コロナウイルスに伴う自粛で対

間違い探しと、各リーダーが工夫を凝らした動画を投稿している。緊急事態宣言が解除されるまで続ける予定。同地区広報担当の宮本知子さん(分団)西宮市菊谷町IIは「動画で毎日クイズと笑ってね」と呼び掛けている。動画は「ボーイスカウト阪神さくら」で検索する。(中川 恵)

神戸新聞 (2020.5.5)

兵庫 □ YouTube での取り組みが新聞で紹介されました

阪神さくら地区 広報委員長 岡崎 正悟

兵庫連盟阪神さくら地区では、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛が始まった直後の4月22日から、毎日 YouTube に動画を投稿しました。その取り組みについて、地元の神戸新聞で紹介していただきました。

投稿動画のコンセプトは「家にいる地域の子どもたちをゆるく励ます動画を届けること」です。

ボーイスカウトの活動や技能を紹介するものではなく、なぞなぞやあみだくじ、間違い探し、体を動かす体操など、ボーイスカウトを知らなくても楽しめる内容を地区内の指導者が考えました。

コロナ禍により、楽しみがなくなり家にいるしかない子どもたちに、少しでも楽しんでもらえたのではないかと思います。

神奈川 □ 福祉施設に手作りマスクを寄付しました

川崎第54団 ベンチャースカウト 上町 望実、孫工 莉緒

私たち川崎第54団ベンチャースカウト隊は、奉仕活動の一環で訪問したことのある福祉施設に、手作りのマスクを寄付しました。コロナ禍で困っている人に、私たちスカウトが何かできないか話し合った結果、この活動を実施することにしました。

外出自粛中は直接会うことができなかったのので、オンライン会議を行い、自粛中でも手に入る材料について意見を出し合いました。どのような人が使うのか、どのようにすればより快適に使ってもらえるかを考え、一人ひとりが心を込めてマスクを縫いました。

そして、合計40枚のマスクに手書きメッセージを添えて、東京都板橋区の福祉施設に郵送しました。後日、マスクが届いた際の写真を施設の方が送ってくださり、それを見たときに「やっ



て良かった！」と心から思いました。

コロナ禍で学校が休校になる中、ボーイスカウトという居場所があり、仲間と共に社会に貢献できることが非常に嬉しかったです。今後も自分たちにできることを、身近なところから探し、行動していきたいです。

静岡 □ 「3つの密」と新しい生活様式”のスカウト活動

浜松第15団 団委員長 佐藤 誠



活動が、6月から徐々に動き出しました。新しい日常にむけて、団としても今まで行っていたことを見直す機会になりました。

まず、日本連盟の「Web 会議環境無償提供プログラム」に登録してオンライン会議で団内の調整などを行いました。

活動面では、活動内容の見直しのため、各部門に適合した書式「新・安全対策計画書」を検討し、都度修正して、ようやく6月の隊集会(ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊それぞれ)で、新しい生活様式の活動が始まりました。

健康管理や活動前の体温管理、活動時の準

備品や集合時の隊形、屋内外の活動形態など、実践しないと分からないことも多くあります。まずは「行うことによって学ぶ」を実践していきたいと思えます。

「何がいけなくて何がいいのか」まだ試行錯誤の状態ですが、活動の趣旨を保護者にも理解していただき、お子さんを活動に参加させていただくことが一番だと感じています。

団が一丸となり、「~新しい日常にむけて~」を意識して活動を進めてまいります。



東京 64年前のトーテムポールが復活

三鷹第2団 ビーバー隊長 岡田 健治郎

三鷹第2団は、1956年6月、東京都三鷹市^{おれ}牟礼の地に生まれました。現在は、ジブリ美術館に近いナザレ修道院の雑木林と、三鷹小鳩幼稚園をお借りして活動しています。60年を超える歴史をいまに伝えるのが、発団した年に作られたトーテムポールです。もともと2体ありましたが、1体は朽ち、もう1体は10年以上倉庫で眠っていました。

これをよみがえらせ、団の原点を思い起こすきっかけになればと関係者が立ち上がりました。長く風雨にさらされた結果、設置当初3m以上あった高さは2.4mになり、造形も崩れかけていました。まずは大人たちが^と砥の粉を塗って割れ目を補修し、すっかり乾いたところでスカウトたちが10色のペンキで色を塗り直しました。

新たに「ボーイスカウト三鷹第2団」の案内標示になる羽をつけ、再び幼稚園の入り口に立てました。復活したトーテムポールは大胆な色合いで、幼稚園の花壇によく映えます。再び未老くスカウトたちを見守ってくれることでしょう。

福島 ◇再び東京五輪を迎える喜び

郡山第3団 団委員長 国馬 善郎

1964年、東京学芸大学世田谷校舎において、東京オリンピック世界青少年キャンプに参加しました。皇太子同妃両殿下（現上皇、上皇后さま）をお迎えし、世界の青少年1,200人のキャンプが開幕。オリンピックの開閉会式や競技参観、都内のパレード、国際文化交流、シンポジウム等、各国スカウト参加者とも楽しく交歓できました。

オリンピック開会式当日の朝、スカルノ大統領の命令で大会不参加になったインドネシアの青年男女10人のお別れの司会をしたことや、マラソン裸足の王者といわれたビキラ・アベベ選手（ゴールドメダリスト）をキャンプでお世話したこと、わが故郷福島のパラダイム選手が後続の英国ベイジル・ヒートリー選手に抜かれる劇的場面で声援を送ったことなど、すばらしい体験が思い出に残り、スカウト人生において大きな喜びになりました。

今回の東京オリンピックでも、競技の参観が難しくとも、全国各地にて外国のスカウト関係者と接することもあるでしょう。2度目の東京オリンピックの成功を願い、日本選手団への応援や大会盛り上げの諸行事や奉仕活動にスカウトの協力、支援などで思い出づくりに挑戦しましょう。

編集注：本記事は、東京オリンピックの開催延期決定以前にご投稿いただきました。



④金メダリストのアベベ選手を迎えての記念撮影

⑤英国ヒートリー選手に抜かれる寸前の円谷選手



ボーイスカウト

PRムービー コンテスト 2020



▶ テーマ



▶ コンテスト詳細

スケジュール

募集締切：10月31日（土）

選考期間：11月中

結果発表：2021年1月上旬（予定）

※審査結果は本誌1月号および日本連盟 HP
にて発表する予定です。

作品の条件

- (1) ボーイスカウトのPRになる内容であること
- (2) 10秒以上90秒以内であること
- (3) 他者の著作権、肖像権を侵害していないこと
- (4) 過去に本コンテストに応募していない作品であること

▶ 動画のポイント！

1. ボーイスカウトのPRになっているか

ムービーコンテストの一番の目的は、ボーイスカウト運動を動画で世界に発信すること。加盟員であるかどうかに関わらず、すべての人が見て楽しめる動画を求めています。

2. 伝えたいことがはっきりしているか

ボーイスカウトのPRであることはもちろん、多様なボーイスカウト活動の中で「何にフ

応募資格

本コンテストへの応募資格は、以下のとおりです。

- (1) ボーイスカウト運動の目的に賛同する者（加盟員である必要はありません）
- (2) 実施要項に同意する者
- (3) YouTube や各種 SNS への動画投稿が可能なアカウントを保有している者（本コンテストに応募するために新規取得したのもでも可）

賞品

優秀作品に選ばれた応募者には、協賛企業等にご提供いただく賞品をお贈りします。

フォーカスをあて「何を伝えたいか」が見る人に伝わる動画を高く評価します。

3. 動画が主体になっているか

動画だからこそ伝えられるものがあります。写真のスライドショーではなく、動画ならではの表現を上手に使っている作品を高く評価します。



コンテストの詳細およびご応募は、日本連盟ホームページをご確認ください。

<https://www.scout.or.jp/member/prmc2020/>

◎訃報

日本連盟 顧問・先達 新藤 信夫

日本連盟役員として長きにわたりご尽力いただいた新藤信夫氏が令和2年8月10日、ご逝去されました(享年81)。謹んでご冥福をお祈りいたします。



【泉連盟および日本連盟奉仕歴】群馬県連盟 理事長 (H4年～)、群馬県連盟 副連盟長 (H12年～)、日本連盟 教育本部中央審議会議長 (H11年～)、日本連盟 常務理事 (H19年～)、日本連盟 コミッショナー (H22年～)、日本連盟 専務理事 (H24年～)、日本連盟 顧問/先達 (H28年～)

【日本連盟受章歴】かっこう章 (S54年)、たか章 (H2年)、特別功績章/スカウティング褒章 (H27年)、さじ章 (H30年) 【外部受章歴】文部大臣表彰 (H9年)、藍綬褒章 (H14年)、旭日単光章 (H26年)

新藤信夫さんを偲んで

日本連盟 総長 奥島 孝康

大学卒業後、長い間スカウト運動から遠ざかっていて、いきなり日本連盟理事長として復帰したばかりで、新藤氏の輝かしい活躍ぶりはまぶしい存在であった。

高校1年生から発隊したばかりの伊勢崎第4隊に入隊し、高校2年生から隊長代行を務め、以来桐生第1団を中心にスカウト活動を続け、ボーイスカウト群馬県連盟理事長、日本連盟理事、日本連盟中央審議会議長、日本連盟コミッショナーなど、まさしく八面六臂の大活躍を続けてこられたことは、周知のところである。

新藤さんの訃報を受け取った8月13日の昼すぎは、一瞬時が止まるかと思われるほどの大きな衝撃の大雷鳴があった。ぼくは浦和の自宅にいたが、一天にわかにか天地がひっくり返るような一大雷鳴がとどろき渡り、あたかも天が彼の死に慟哭するかのごとく、それはすさまじく、3時間近くも雷鳴がとどろいた。

ぼくは、日本連盟の理事長に就任すると、人事を熟慮したうえで、最も信頼すべき方として、新藤さんと西村さんの2人を

専務理事として、連盟の総括を新藤氏に委ね、第23回世界スカウトジャンボリーを西村氏に委ねた。もとより、これは完璧な布陣というわけではなかったが、今から考えてみても、当時としてはベストに近い布陣であったと考える。とりわけ、新藤さんのさまざまな配慮は後になって大変生きている。さすがに、大ベテランは気配りと手配りであった。ぼくがどんなに感謝しているか、それを伝える十分な時間がなかったことが悔やまれる。

新藤さんは、ミツバ電機企業体スカウトとして、長年にわたって役員を務め、その経営手腕をボーイスカウトの運営にも応用して多大な成果を挙げられたことは、万人の知るところである。その意味では、スカウト活動を企業活動と実にうまくバランスをとって、その人生を送られた。まれにみる人生といわなければならぬ。スカウト活動と企業活動を全体的に見事にマッチさせるという稀有な人生を送られた方として珍しい。まさしく「さじ章」にふさわしい方であった。心からご冥福をお祈り申し上げます。

SCOUTING

デジタル配信しています！



機関誌『スカウティング』のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。

デジタル版は、文字もそのままコピーできますので、さまざまな資料に、より簡単に引用できるほか、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。

ぜひご活用ください。

通常は ID と PASS を入力していただいておりますが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動への臨時措置としてパスワードを解除します。ぜひスカウトや保護者の皆さまにもご案内ください。自宅におけるスカウト活動などにもお役立ていただければ幸いです。



URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>

ID: scouting-magazine

PASS: sonaeyotuneni

2020
No.740

11

SCOUTING

次号予告 次号の『スカウティング』は、2020年11月1日発行

特集

指導のための自己研鑽

次号では、スカウトの活動を支援するために指導者が行うべき訓練や心構えについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

なんでも投稿先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局『スカウティング』投稿係

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話 03-6913-6262 (代表) FAX 03-6913-6263 Eメール scouting@scout.or.jp

投稿規定/本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は、文字数400字で写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があり、また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんのお投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟『スカウティング』2020年9月号 No.739 令和2年9月1日発行(奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 <https://www.scout.or.jp>

『スカウティング』は、全国のボーイスカウト指導者(隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員)に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は団での登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月～8月に新規、追加登録申請が承認された場合:5月号から当該月号を同封にて送付(例:8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封) ②9月～翌年3月に登録申請が承認された場合:11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号～9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合は有償でお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外の方も別途購読いただくことが可能です。詳しくはボーイスカウト日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。

©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2020 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部(代表 TEL:03-6913-6262)までご連絡ください。

SCOUT SHOP NEWS



トートバッグ Be prepared

品番：75966 (右)
 価格：¥1,320
 仕様：本体 / 約 480×400×150mm
 持ち手 / 約 30×600mm
 コットン製約 12oz

トートバッグ Forest

品番：75967 (左)
 価格：¥1,320
 仕様：本体 / 約 480×400×150mm
 持ち手 / 約 30×600mm
 コットン製約 12oz

ECO LIFE & ANNIVERSARY NEW ITEMS



100周年 キーホルダー

品番：73010
 価格：¥330
 仕様：本体 / 約 40×40×4mm
 PVC製

100周年 ネックリング カラー

品番：73005
 価格：¥385
 仕様：本体 / 約 40×40×4mm
 裏筒 / 外径 24mm 内径 18mm
 PVC製

100周年 ネックリング いぶし銀

品番：73001
 価格：¥462
 仕様：本体 / 約 38×38mm 鉄製

100周年 クラシック SD

品番：73015
 価格：¥2,420
 仕様：9×58mm 21g
 7機能 ビクトリノックス社製



完全限定生産 100周年ネックリング ゴールド

品番：73003
 価格：¥1,100
 仕様：本体 / 約 38×38mm 鉄製 金メッキ仕様
 生産数：200個

限定生産の商品に関して

限定生産商品は、全国の一部スカウトショップでの販売と、直営店および Online での抽選販売になります。
 直営店および Online の抽選に関する情報は、ホームページ、各 SNS で9月中旬に公開いたします。

※実際の商品の色と異なって見える場合がございます。予めご了承ください。 ※価格は税込表示です。

SCOUTING 2020/9 739

スカウトイング
 発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
 昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
 令和2年9月1日発行 (奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
 電話 03 (6913) 6262 (代)

定価 ¥200 (税込)
 郵便振替 00130-1-66119
 口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟



そなえよつねに。足りないものは“SCOUT SHOP”で！



SCOUT SHOP JAPAN
 Official Shop of the Scout Association of Japan

